

新日銀ネット構築プロジェクトの進捗状況



日本銀行 決済機構局
2010年12月14日

1. これまでの経緯

- | | |
|-----------|--|
| 2009年10月 | 新日銀ネット構築の基本方針の決定
(2009年7～9月に市中協議を実施) |
| 2009年11月～ | 機能・仕様等に関する意見募集(計3回) |
| 2010年4月～ | 意見交換会の開催(計3回) |
| 2010年10月 | コンピュータ接続の技術仕様の概要等の公表
(2010年7～9月にコンピュータ接続の技術仕様等に関する意見・技術情報を募集) |

2. 新日銀ネットの基本コンセプト

最新の情報処理技術の採用

変化に対して柔軟性の高いシステムの構築

アクセス利便性の向上

- 内外の決済システムや金融機関との接続性の改善。
- 稼働時間の大幅な拡大を可能とするシステム基盤の整備。

2

3. 意見交換会での議論

(1) 国債決済の一層の円滑化に向けた対応について

他の証券決済インフラとの接続

- ・ 証券保管振替機構の決済照合システムおよび日本国債清算機関のシステムとの接続を可能とする。

DVP決済のメッセージフローの見直し

- ・ 国債の売り方だけでなく、国債の買い方や上記の証券決済インフラ運営者も、取引データの送信を可能とする。
- ・ DVP決済は、上記の取引データに対して国債の売り方・買い方の双方が決済指示のデータを送信することにより実行する。

振替停止期間の廃止

- ・ 元利払関連事務を極力前倒しかつ効率的に行えるような機能を手当てすること等により、振替停止期間を廃止する。

3

3. 意見交換会での議論

(2) 新日銀ネットの通信メッセージについて

- ・ 新日銀ネットの電文(XML電文)は、極力ISO20022に適合するように対応する。
- ・ 新日銀ネット(第2段階対象業務)の稼動開始時点で、XML電文に一斉移行する。

(3) 新日銀ネットの稼動時間について

- ・ システム上は、毎営業日、長時間稼動を実現する。
- ・ 運用上は、全利用先が参加する「コアタイム」を設け、コアタイム外の利用は任意とする。

4

4. 今後のスケジュール

(1) 第1段階対象業務(オペ・国債発行の一部)

2013年夏以降を目途に 総合運転試験を実施(6か月間程度)

2014年初

～3月末を目途に 稼動開始

(2) 第2段階対象業務(資金・国債決済等)

2015年初以降を目途に 総合運転試験を実施(8か月間程度)

2015年秋～

2016年初を目途に 稼動開始

5